

[論文]

湘語蔡橋方言の指小辞「崽」について

王 振 宇

〈目 次〉 Abstract

1. はじめに
2. 蔡橋方言の「崽」の意味用法
 - 2.1 「こども」を表す「崽」
 - 2.2 動植物の「こども」を表す「崽崽」
 - 2.3 呼称名詞語尾の「崽」
 - 2.4 寸法の「小さい」ことを表す「崽」
 - 2.5 数量の「小さい」ことを表す「崽」
 - 2.6 「近似」を表す「崽」
 - 2.7 「称赞」などの感情を表す「崽」
 - 2.8 「軽蔑」などの感情を表す「崽」
3. おわりに

Abstract

This paper investigates the meaning and usage of the diminutive suffix “zai” in the Cai-Qiao Xiang dialect. Firstly, “zai” as a noun denotes children and the young of animals and plants. This basic meaning extends to expressing affection as a suffix for appellative nouns and further expands to emphasize praise when combined with positive adjectives. Moreover, “zai” signifies small dimensions and quantities, from which the concept of approximation arises, leading to its function as a mitigating expression. The mechanisms by which small dimensions and quantities extend to mitigation are due to approximation and diminishing importance, respectively. Additionally, the paper explores how “zai” intensifies the tone in sentences expressing contempt or mockery. This function is syntactically correlated with the meanings of small dimensions and quantities, indicating a close relationship. Based on the analysis, the semantic structure of “zai” in the Cai-Qiao dialect is illustrated following Jurafsky’s (1996) universal semantic structure of diminutives. This demonstrates that “zai” not only indicates small dimensions or quantities but also serves as a mitigating function and adds emotional nuances such as praise, affection, contempt, and mockery.

1. はじめに

指小辞 (diminutive) は『言語学大辞典 (第6巻 術語編)』(亀井ほか1996)において次のように説明されている。

名詞・形容詞・副詞に特定の接辞を付けて、それらの語のさす事物の寸法・

度合いがごく小さいこと、または、その表す性質・程度が軽少・微弱であることなどを意味する派生語のこと…口語や俗語で、愛らしさの強調や、愛着や親密さ、またはその逆に軽蔑や侮辱などの情緒的表現として用いる場合が多く、多数の言語にその例がある。(p.638)

Wu Yunji (2002) は、中国の湘語では、指小辭が接辭としてだけでなく、時間詞や形容詞の語尾や助詞などとしても機能すると指摘し、道州方言などの「崽」類 ([tsa]-like forms) 指小辭、浏陽方言などの「唧」類 ([tɕi]-like forms) 指小辭、長沙方言などの「子」類 ([sɿ]-like forms) 指小辭はいずれも単に事物の寸法や度合いが「小さい」ことを示すだけでなく、感情的なニュアンスを加える役割も果たしていると述べている(図1参照)。

近年、湘語における「唧」類と「子」類指小辭に関する研究が多く積み重ねられている(卢小群2007, 周敏莉2011, 罗昕如2011, 夏俐萍・严艳群2015など)。一方、「崽」類指小辭の助詞の用法についての研究は、まだ十分には行われていない。Wu Yunji (2002) の研究(図2)によれば、助詞の用法を持つ指小辭「崽」は道州方言にしか見られない。しかし、本稿の考察対象である湘語蔡橋方言にも、道州方言の「崽」と類似する用法の指小辭「崽」が存在する。本稿は、蔡橋方言における「崽」の意味用法を詳細に記述し、これ

Full noun	>	diminutive (a)	>	nominalizer	>	particle
[tsa]		young children				
son/baby		baby animals				
		seeds				
		small objects				
[tɕi]	>	diminutive (b)	>	time word	>	particle
?		small animals				
		kin terms				
		addressing terms				
[tsɿ]	>	nominalizer	>	time word	>	particle
(son/baby)						

図1 湘語の指小辭
(Wu Yunji2002 : 56)

Table 2. The [tsa]-like forms in the Hunan dialects

Baby animals	Youngkin/terms/ other addressing terms	Small objects	Nominalizer	Particle	Localities
+	+/-	+	-	-	Xinhua
+	+/-	-	-	-	Hengshan
+	+/-	-	-	-	Dong'an
+	+/-	-	-	-	Hengyang
+	+/-	+	-	-	Liyang
+	+/-	-	-	-	Yiyang
+	+/-	+	-	-	Lianyuan
+	+/-	-	-	-	Shaoshan
+	+/-	-	-	-	Loudi
+	+/-	-	-	-	Changning
+	+/-	+	+	-	Guzhang L
+	+/+	+	+	+	Daozhou M
+	+/-	-	-	-	Shaoyang
+	+/-	-	-	-	Qiyang
+	+/-	-	-	-	Changsha
+	+/-	-	-	-	Linwu M
+	+/-	-	-	-	Linwu L

図2 湖南方言における「崽」類指小辭
(Wu Yunji2002 : 48)

までの研究に不足している「崽」類の指小辞に関する研究を補完することを目的とする。

蔡橋方言は、湖南省邵陽市蔡橋郷を中心に話される方言であり、湘語の下位グループ「武邵小片」（武岡・邵陽小片）に属する（鮑厚星・陳暉2005, 王振宇2013）。蔡橋郷は中国湖南省邵陽県の西部に位置し、南には新寧県、西には武岡市が隣接する。蔡橋郷には21の行政村があり、総面積は69.92平方キロメートル、人口は約26,300人（『邵陽県志（1978～2002）』）。本稿の用例は王振宇（2013）『湘語蔡橋方言の研究』から引用したものと、2023年に蔡橋郷落馬村で行った野外調査で得たデータに基づく。

以下では、まず考察するにあたり、利用する理論的枠組みについて紹介し、第2節で蔡橋方言における「崽」の意味用法を詳述する。

Jurafsky (1996) は、世界の多くの言語における指小辞が「子供 (child)⁽¹⁾」を意味する名詞から意味変化したものであると指摘し、図3に示すような指小辞の普遍的な意味構造を提案している。

この構造は「子供 (child)」の意味を起点にして四方に放射状に拡大し、新しい意味を派生させるものである。具体的には、「子供 (child)」の意味から「小さい (small)」や「女性 (female)」という意味に拡大し、さらに「小さい (small)」という意味から「小さい形のもの (small type-of)」、「模造品

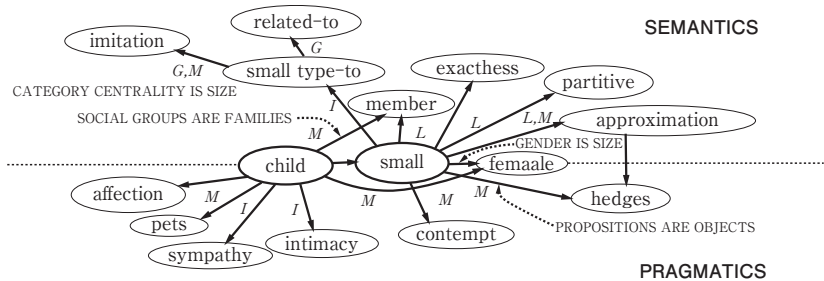


FIGURE 5. Proposed universal structure for the semantics of the diminutive.

図3 指小辞の普遍的な意味構造図 (Jurafsky1996 : 542)

(imitation)], 「小さい関連のもの (related-to)], 「一員 (member)], 「緻密さ (exactness)], 「部分 (partitive)], 「近似 (approximation)] などといった意味論的な意味が派生する。また, 語用論的には「愛情 (affection)], 「ペット (pets)], 「同情 (sympathy)], 「親密さ (intimacy)], 「軽蔑 (contempt)], 「緩和 (hedges)] などの意味も生じるとされている。このような意味の拡張は, 隠喩や換喩といったメカニズムによって実現されていると述べている。

この意味構造図は, 指小辞の普遍的な意味の拡張プロセスを示しており, 様々な言語における指小辞の共通点を描いたものである。本研究では, Jurafsky の意味構造図に基づいて, 蔡橋方言における「崽」の意味用法を記述する。ただし, 蔡橋方言における「崽」の用法は, この構造図が示すすべての意味を表すものではない。構造図は「子供」という中心的な意味から, 意味論的および語用論の意味に広がる過程を示しているが, その中の「小さい形のもの (small type-of)」や「一員 (member)」などの意味論的意味は, 蔡橋方言では他の文法手段により表される。⁽²⁾ 蔡橋方言の「崽」は「こども」という意味を表す名詞であると同時に, 指小辞としても機能し, 数量や寸法が「小さい」ことや近似していることを表す役割を持つ。また, 語気を和らげる「緩衝」機能を持ち, 親しみ, 称賛, 満足, 軽蔑などの対人態度を表現する際にも用いられる。以下では, 蔡橋方言の指小辞「崽」の意味用法について, 具体的な使用例を通じて詳細に述べていく。

2. 蔡橋方言の「崽」の意味用法

2.1 「こども」を表す「崽」

「崽」は名詞として「こども」の意味を表す。例 (1), (2) の「崽」は「むすこ」の意味を表す。例 (3) のように, 「むすめ」を含む場合もある。

- (1) 大崽 (長男), 晚崽 (末っ子 (男)), 崽女 (息子と娘), 女婿崽 (婿養子)

- (2) 崽在长沙工作, 晚女在乡里. (息子は長沙で働いているが, 娘は田舎にいる.)
- (3) 恩崽 (養子), 两娘崽 (母と子), 两爷崽 (父と子)

2.2 動植物の「こども」を表す「崽崽」

「崽」は重ねる形式で動物の幼体や植物の小さい果実を表すことができる.

- (4) 牛崽崽 (子牛), 鸡崽崽 (雛), 猪崽崽 (子豚), 鸭崽崽 (アヒルの子), 鹅崽崽 (ガチョウの子)
- (5) 南瓜崽崽 (カボチャの小さい果実), 冬瓜崽崽 (冬瓜の小さい果実), 西瓜崽崽 (スイカの小さい果実), 线瓜崽崽 (ヘチマの小さい果実), 茄子崽崽 (ナスの小さい果実)

2.3 呼称名詞語尾の「崽」

「崽」は呼称名詞の語尾として, 「男の子」や「女の子」の2つのみに使われる. この場合, 「崽」は語構成の機能を果たすほか, 「親しみ」の感情を表すこともできる. 兄弟の序列を表す接頭語を付けて使用することもある (例 8, 9).

- (6) 伢崽 (男の子)
- (7) 妹崽 (女の子)
- (8) 大妹崽 (一番上の娘) / 二妹崽 (二番目の娘) / 晚妹崽 (一番下の娘)
- (9) 大伢崽 (一番上の息子) / 二伢崽 (二番目の息子) / 晚伢崽 (一番下の息子)

2.4 寸法の「小さい」ことを表す「崽」

「指示詞「咯」(この・これ) + 形容詞」は通常, 物の寸法をジェスチャーで示しながら説明するために用いられる. この場合の形容詞は「大」(大きさ), 「长」(長さ), 「宽」(幅の広さ) などものの寸法を表すものを指す. 指示詞を強く発音すると, その寸法が極端的に大きいこと ((10) b) を表現す

ることができる。

(10) 渠穿个鞋咯大。

- a. 彼の履く靴はこの大きさです。
- b. 彼の履く靴はこんなに大きいのか。

ところが、これに「崽」を用いると、その寸法の値が小さいことしか表せなくなり、同時に「くらい」という近似の意味を含むようになる。「崽」は、形容詞が表した寸法を小さくし、近似を示す役割を果たすと考えられる。

(11) 渠穿个鞋咯大崽。(彼の履く靴はこれくらいの大きさしかありません。)

さらに例を示すと、例えば、以下の各組の例文では、例文 a (指示詞「咯」を強く発音しない場合) はそれぞれ自転車のサドルの高さ、リングの大きさ、ダムの水の深さを説明する文であるが、これに対し、例文 b は「崽」を用いることで、これらの寸法の小さいことと近似の意味を強調するようになる。

(12) a. 单车坐垫咯高。

(自転車のサドルはこの高さです。)

b. 单车坐垫咯高崽。

(自転車のサドルはこれくらいの高さしかありません。)

(13) a. 超市个苹果咯大。

(スーパーのりんごはこの大きさです。)

b. 超市个苹果咯大崽。

(スーパーのりんごはこれくらいの大きさしかありません。)

(14) a. 今日水库个水咯深。

(今日のダムの水はこの深さです。)

b. 今日水库个水咯深崽。

(今日のダムの水はこれくらいの深さしかありません.)

そして、「没好+形容詞」(あまり～ない)という形式も寸法が小さいことを表す。「崽」をこの文型に用いると、同様に、寸法の「小ささ」をさらに強調することができる。

(15) 那只山没得好高崽, 爬得上去.

(あの山はあまり高くなく, 登っていけます.)

(16) 我没得好多钱崽哩.

(私はもうあまりお金を持っていない.)

「指示詞「咯」+形容詞」と「指示詞「咯」+形容詞+崽」はいずれも連体修飾語として機能するが、この場合も同様に、前者は寸法の大きいことを強調するか、寸法の説明に用いられるが、後者は「崽」の働きによって、寸法の小さいことを表す。例えば、

(17) a. 咯深个河

(こんなに深い川 / この深さの川)

b. 咯深崽个河

(これくらいの深さしかない川)

(18) a. 咯大个苹果

(こんなに大きなりんご / この大きさのりんご)

b. 咯大崽个苹果

(これくらいの大きさしかないりんご)

(19) a. 咯宽个路

(こんなに広い道路 / この広さの道路)

b. 咯宽崽个路

(これくらいの広さしかない道路)

「崽」は名詞の後ろに置かれることも可能である。この場合、「崽」は取り立て助詞として働き、寸法の小ささを強調するだけでなく、取るに足りないという軽蔑の感情をも付加する。ただし、ここでは近似の意味は含まれない。

(20) 咯深个河崽，哪有么大鱼？

(こんなに浅い川なんて、大きな魚がいるはずがないだろう。)

(21) 咯大个苹果崽，两个人分？

(こんなに小さいリンゴなんて、二人で分けるの？)

(22) 咯宽个路崽，还停起三四部车。

(こんなに狭い道なんて、車が三、四台も並んでいる。)

さらに、「崽」は「名詞+形容詞」の形式に用いられ、軽蔑の感情を表す。この場合、「名詞」は「手板(手のひら)」、「手指佬(指)」、「牛粪(牛ふん)」など、一般的に寸法が小さいと認識されるものである。例えば、

(23) 渠米屋只手板大崽。

(彼の家は手のひらほどの大きさしかない)

(24) 渠米腰怕就只有手指佬粗崽。

(彼の腰は指ほどの太さしかない。)

(25) 牛粪高崽，何晓得咯多个事。

(牛ふんほどの高さしかないのに、どうしてそんなに多くのことを知っているのか。)

2.5 数量の「小さい」ことを表す「崽」

蔡橋方言でよく使われる不定の数量を表す不定量詞として、「滴」がある。「滴」は「崽」と共起する場合としない場合があるが、共起する場合は少量を表し、共起しない場合は少量の意味を有しない。また、「滴」の重ね型である「滴滴」は不定の極少量を表し、必ず「崽」と共起して初めて使える。

(26) A：你屋有感冒药么？

(お家には風邪薬がありますか。)

B1：我屋有滴。

(家には少しあります。)

B2：我屋有滴崽。

(家にはわずかにあります。)[B1の回答よりもっと少ない]

B3：*我屋有滴滴。

B4：我屋有滴滴崽。

(家にはわずかにあります。)[B2の回答よりもっと少ない]

(27) 今日比昨日热滴崽。(今日は昨日より少し暑い。)

そして、「滴」が「只」(ただ~だけ)というような少ないことを強調する副詞と共起する場合は、必ず「崽」を伴う形にならなければならない。

(28) a. 咯本书还只看得滴崽，没看完。

(この本はまだ少ししか読んでいなくて、全部読み終えていない。)

b. *咯本书还只看得滴，没看完。

「滴」が名詞を修飾する場合、「崽」は「滴」の直後に置かれてもよければ、「滴」と名詞を挟んで文末に置かれてもよい。下に示す文型 a と文型 b のとおりである。

文型 a. 滴 + 崽 + 名词

文型 b. 滴 + 名词 + 崽

文型 a における「滴崽」の「崽」は不定量詞の接尾辞として働き、主に少量の意味を表す。これに対し、文型 b の文末に位置する「崽」は、口調を和らげる、つまり緩衝機能を果たしている。

例えば、以下の用例では、((29) a) の「崽」は用事の少なさ、つまり、「わずかな用事」を表すのに対して、((29) b) は「さほど重要でない用事」を表す。文型 b の文末の「崽」は、話し手が事柄の重要度を「下げる = 小さくする」、つまり、事柄を軽く扱っていることを示すことで、相手に柔らかい印象を与える。この違いはストレスのかかる位置の変化にも表れる。((29) a) のストレスは不定量詞「滴」にあり、((29) b) のストレスは名詞「事(用事)」にかかる。

(29) a. 我有滴崽事，你先回去。

(ちょっとした用事がある。先に帰りなさい。)

b. 我有滴事崽，你先回去。

(ちょっと用事がある。先に帰りなさい。)

こうして、語尾「崽」と文末の「崽」は果たす役割がそれぞれ違うため、「滴崽 + 名词 + 崽」のように共起する場合もある。

(30) 我还有滴崽事崽，你先回去。

((さほど重要でない) ちょっとした用事がある。先に帰りなさい。)

(31) 他碰倒滴崽麻烦崽，就来寻我帮忙。

(彼はちょっとしたトラブルに遭うと、すぐに助けを求めに来る。)

2.6 「近似」を表す「崽」

「崽」は具体的な数量を表す「数詞 + 量詞」に使われることで、数量の小ささを表すと同時に、近似的な数量であることを示す役割を果たす。例え

ば、以下の各組の例文では、例文 a は「崽」を用いることで近似的な数量を表している。一方、「崽」を伴わない例文 b は精確な数量を表す。

(32) a. 刚米个妹崽只八岁崽.

(先のあの子は8歳くらいしかありません.)

b. 刚米个妹崽只八岁.

(先のあの子は8歳しかありません.)

(33) a. 从咯到我屋没远, 两个小时崽.

(ここから私の家までは遠くありません。2時間くらいしかかかりません.)

b. 从咯到我屋没远, 两个小时.

(ここから私の家までは遠くありません。2時間かかります.)

「数詞+量詞」が「名詞」を修飾する場合、「崽」の位置は「数詞+量詞」ではなく、「名詞」の後ろになる。例えば、例(34)では、「1袋くらいの米」を「一袋崽米」(a) というのは不適格で、「一袋米崽」(b) が適格である。この構文的な特徴からもわかるように、「崽」は数量詞に付く接尾辞ではなく、文全体にかかわる語気助詞として機能する。

(34) 彼は力が全然なくて、一度に1袋くらいの米しか運べません。

a. *他劳没力气, 一次只背得起一袋崽米。

b. 他劳没力气, 一次只背得起一袋米崽。

近似の意味を表す「崽」でも、数量が小さい場合や話し手が主観的に少ないと感じる場合に限定して使用される。例えば、次の例文では、距離が遠いこと(例35)や年齢が高いこと(例36)を表現しているため、「崽」を使うのは不適切である。

(35) *从咯到我屋蛮远, 两个小时崽.

(*ここから私の家まではかなり遠く、2時間くらいしかかかりま

せん.)

(36) *刚米个男人家年纪蛮大, 四十岁崽.

(*先のあの男の人は年がいていて, たぶん40歳くらいしかありません.)

以上のことは, 近似の意味を持つ「崽」にも, 数量の小ささを示す特性が残っていることを示しており, 数量の小ささと近似の意味が密接に関連していることを表している.

「崽」は近似の意味を表すことができるため, 次のような近似を示す文型と組み合わせて用いられることが多い.

① 連続の数詞+量詞

(37) 两三里崽

(2, 3里くらい)

(38) 那伢仔三四岁崽.

(その男の子は3, 4歳くらい.)

② 量詞+把+名詞

(39) 个把人崽

(1人くらい)

(40) 杯把酒崽就倒嘎哩.

(1杯のお酒を飲んだだけで倒れてしまった.)

③ 量詞+把+两+量詞 (+名詞)

(41) 个把两个人崽

(1人, 2人くらい)

(42) 里把两里路崽, 我还是吃得消.

(1里くらいの道なら、まだ耐えられます。)

「崽」は時間を表す名詞の後ろに付くことで、おおよその時間を表す。

(43) a. 明天三点崽来。

(明日の3時前後に来なさい。)

b. 明天三点来。

(明日の3時に来なさい。)

「崽」は、「咯坨」(ここの辺り)や「你坨」(そこの辺り)、「米坨」(あそこの辺り)というちょっと漠然としたの場所を示す表現と共に使用されることがある。この場合、「崽」はこういった表現の空間的な範囲をさらにぼかす役割を果たしている。そのため、相手に対する指示や命令に使われる場合、命令の口調を和らげる効果がある。

(44) a. 你在咯坨，莫行远哩。

(君はここの辺りにいて、遠く離れないで。)

b. 你在咯坨崽，莫行远哩。

(君は**大体**ここの辺りにいて、遠く離れないで。)

(45) —— 锁匙还到把你，放哪里好？

(鍵を返すけど、どこに置けばいい？)

—— a. 放你坨。

(そこの辺りににおいて。)

—— b. 放你坨崽。

(**大体**そこの辺りににおいて。)

「好深」(どれくらい深いか)、「好宽」(どれくらい広いか)、「好多」(どれくらい多いか)、「好久」(どれくらい長いか)などの「好+形容詞」の形式は、

寸法や数量，時間の長さなどを尋ねる疑問詞である。「崽」はこれらの疑問詞に付けて使用されると，口調を和らげる機能を有する。「崽」を付けない文は，厳しく問いただす場合にも使えるが，「崽」を使う場合はそのような厳しさがなくなる。

(46) a. 咯口井好深？

(この井戸はどれくらい深いのですか？)

b. 咯口井好深崽？

(この井戸はどれくらい深いのですか？)

(47) a. 米西瓜好重？

(あのスイカはどれくらい重いのですか？)

b. 米西瓜好重崽？

(あのスイカはどれくらい重いのですか？)

(48) a. 你还有好多事？

(あなたはまだどれくらいの用事があるのですか？)

b. 你还有好多事崽？

(あなたはまだどれくらいの用事がありますか？)

(49) a. 还要等好久？

(まだどれくらい待たなければならないのですか？)

b. 还要等好久崽？

(まだどれくらい待たないといけませんか？)

以上の例文において，「崽」を付けた疑問文は，回答として求める値が近似値でも良い，つまり，精確でなくとも良い，という柔軟性を示しており，その結果，質問の口調が和らいでいる。これに対して，「崽」を付けない疑

問文は、より厳密な回答を求める印象を与えるため、口調が厳しく感じられる。この違いは、「崽」が近似の意味を表す機能に由来しており、話し手が相手に対してどの程度の精度を求めているかを示すものであり、質問のニュアンスに大きな影響を与える。

2.7 「称賛」などの感情を表す「崽」

「崽」は状態形容詞の後に使用され、称賛、満足などのポジティブな感情を表す。特にポジティブな感情を表す形容詞と結びつきやすい一方で、ネガティブな意味を持つ形容詞とは結びつきにくい傾向がある。

例えば、「恭恭敬敬 (恭しい)」、「清清白白 (清廉潔白)」、「客客气气 (礼儀正しい)」、「没声没气 (物静かだ)」などの後ろには「崽」を付けることができるが、「哈哈□□ (cie⁴⁴ cie⁴⁴) (ばかっばい)」、「癡癡懂懂 (無頓着だ)」、「没大没小 (無礼だ)」などの後ろには「崽」を付けることができない。

また、「蛮 (とても) + 形容詞」の後ろに付ける場合も、ポジティブの形容詞としか結びつかない。例えば、

- (50) a. 渠整个菜蛮好吃崽。
 (彼の料理はとても美味しい。)
 ⁽³⁾
 b. *渠整个菜蛮咸崽。
 (彼の料理はとても塩辛い。)

- (51) a. 咯学生蛮听讲崽。
 (この学生はとても従順です。)
 b. *咯学生蛮吵崽。
 (この学生はとても騒々しい。)

「崽」は感情が中立の形容詞句の後にも使用されることがある。例えば、次の用例のうち、((52) a) は「日焼けして黒くなっている」という客観的な事実を表現している。「崽」を使用すると、話し手の称賛の態度が明示さ

れているため、後続する文がポジティブな感情の表現 ((52) b) であれば適切であるが、ネガティブの感情の表現 ((52) c) であれば不適格となる。

(52) a. 他晒得黢黑.

(彼は日焼けして黒くなっている.)

b. 他晒得黢黑崽, 蛮精神.

(彼は日焼けして黒くなって, とても元気だ.)

c. *他晒得黢黑崽, 像坨煤.

(彼は日焼けして黒くなって, まるで炭のようだ.)

2.8 「軽蔑」などの感情を表す「崽」

「崽」は「軽蔑」や「嘲笑」の感情を持つ文に使用され、それらの口調を強めることができる。この場合、名詞句 (例 (53), (54)) や動詞句 (例 (55) ~ (57)) と組み合わせて使用される。これらの名詞や動詞句は一般に意味が階層的に分けられており、その階層が相対的に低いことが多い。例えば、(53) の文脈では、「专科」が「专科 (三年制大学) < 本科 (四年制大学) < 硕士 (修士) など」という学歴の階層の中で最も低く、「崽」はその「低さ」を強調し、文全体の「軽蔑」の口調を強める。また、これらと組み合わせて使用される文は状態を表すものもあり (例 (56), (57)), その状態はしばしば状況にそぐわないものであり、その文自体が「嘲笑」の口調を持っている。「崽」はその口調をさらに強める役割を果たす。

(53) 读书不发狠, 到时候只读得只么专科崽.

(勉強を頑張らないと, 最終的には何とか専門学校しか行けない.)

(54) 滴烂衣衫崽, 还担起送把别个.

(こんなボロボロの服を, まだ他人にあげようとする.)

(55) 没本事, 拉只板车崽还要得.

(能力がないから, 手押し車を引く仕事くらいしかできない.)

(56) 穿得咯笔挺崽, 去哪里做么子?

(そんなにきちんとした服装で、どこに行くつもりだ?)

(57) 翘起米二郎脚崽, 好嬉得很.

(あのように足を組んで座って、ずいぶん楽そうだね.)

これらの例文では、量詞(「只」(個), 「滴」(少し))や指示詞(「咯」(こ-), 「米」(あ-))が「崽」と共に使用されている。2.4と2.5で述べたように、寸法の小ささを表す「崽」は指示詞を伴い、数量の小ささを表す「崽」は量詞を伴うという構文的な特徴を持つ。これにより、軽蔑や嘲笑などの感情を表す「崽」と、寸法や数量の小ささを表す「崽」との間には構文上の共通点が見られ、両者の間には密接な関係があることが示唆される。

3. おわりに

本稿では、湘語蔡橋方言における指小辞「崽」の意味と用法について考察し、以下のような多様な意味機能を明らかにした。

まず、「崽」が名詞として「こども」や動植物の幼体を表す用法について述べた。このような基本的な意味から派生して、呼称名詞の語尾として使用される際には「親しみ」の感情を表し、さらにポジティブな形容詞と結びついて「称赞」の感情を強調する用法へと拡大することが確認された。

次に、「崽」が寸法や数量の小ささを表す機能について検討した。これらの意味から「近似」の意味が派生し、さらに口調を和らげる「緩衝」表現としての機能が生じることを示した。例えば、疑問文においては、回答として求める値が必ずしも正確でなくても良いという柔軟性が示され、その結果として質問の口調が和らぐことにつながる。ただし、寸法や数量の小ささが「緩衝」機能に拡大するメカニズムは、近似の意味にのみ依存しているわけではない。むしろ、寸法や数量の小ささが事柄の重要度を低下させることに

よっても、緩衝機能への意味拡大が実現されるという点についても考察を行った。

さらに、軽蔑や嘲笑の感情を持つ文において「崽」がその口調をさらに強める役割についても述べた。この機能は、寸法・数量の小ささの意味から派生しうる機能であり、軽蔑や嘲笑などの感情を表す「崽」と寸法・数量の小ささを表す「崽」との間には構文上の共通点があり、両者の間には密接な関係があることが示された。

以上の分析を踏まえ、Jurafsky (1996) が提示した指小辞の普遍的な意味構造図(図3)に基づき、蔡橋方言における「崽」の意味構造を図4のように示すことができる。これにより、「崽」が感情的なニュアンスを付加する多様な機能を持つことが明らかになった。「崽」は、単なる事物の寸法や数量が小さいことを示すだけでなく、緩衝機能や称賛、親しみ、軽蔑、嘲笑などの感情的なニュアンスを付加する役割も担っている。

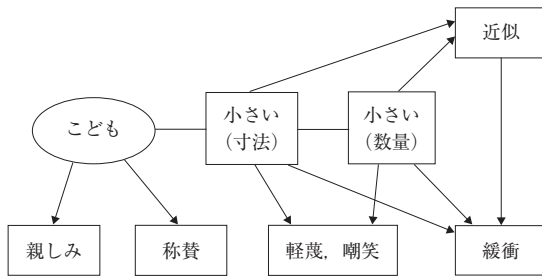


図4 蔡橋方言「崽」の意味構造図

このように、蔡橋方言の「崽」は多様な意味と機能を持ち、その用法は指小辞の普遍的な意味構造図においても位置づけることができる。今後の研究課題として、他の湘語方言や中国全土の方言における指小辞の使用状況との比較研究を進める必要がある。

〔注〕

- (1) 用語の日本語訳は主に日野資成訳 (2019) に基づくが、「approximation」を「近似」, 「hedges」を「緩衝」と訳するのはそれぞれ中谷安男 (2018), 神田靖子 (2004) の訳語を援用する。
- (2) 蔡橋方言では, 名詞の重畳形式による意味派生のケースが多く見られる。例えば, 「模造品 (imitation)」には, 「眼 (目) 一眼眼 (小さい穴)», 「路 (道) 一路路 (細長い模様)」といった例が挙げられる。
- (3) 用例の前に付した「*」はそのような表現が存在しないことを示す。

〔参考文献〕

- 鮑厚星・陈晖 (2005) 「湘語的分区 (稿)」, 『方言』第3期, 261-270
- エリザベス・C・トラウゴット, リチャード・B／ダッシャー著, 日野資成訳 (2019) 『意味変化の規則性』ひつじ書房
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編著 (1996) 『言語学大辞典 (第6巻 術語編)』三省堂
- 神田靖子 (2015) 「ラポール維持管理のストラテジー: 交渉場面における「格下げ表現」」『同志社大学留学生別科紀要』4号, 41-58
- 曹志耘 (2001) 「南部吳語的小称」『語言研究』3号, 33-44
- 卢小群 (2007) 『湘語語法研究』中央民族大学出版社
- 罗昕如 (2011) 『湘語与贛語比較研究』湖南师范大学出版社
- 中谷安男 (2018) 「社会科学, 人文科学, 自然科学分野の国際ジャーナルにおける考察の章の分析: 緩衝表現ヘッジの検証」『経済志林』86 (2), 87-114
- 邵阳县志编纂委员会 (2008) 『邵阳县志 (1978-2002)』湖南人民出版社
- Wu Yunji (2002) 「A Preliminary Study on the Development of Nommalizer and Diminutive Suffixes in the Hunan Dialects」『中国語文研究』2002年第2期
- 夏俐萍・严艳群 (2015) 「湘贛語小称标记“啣”的主观化及形态演变—以湖南益阳方言为例」『方言』3号, 262-273
- 王振宇 (2013) 『湘語蔡橋方言の研究』好文出版
- 谢留文 (1991) 「南昌县 (蒋巷) 方言的“子”尾和“里”尾」『方言』2卷, 138-142
- 辛永芬 (2008) 「河南浚县方言形容词短语的小称儿化」『語言研究』3号, 19-25
- 熊正辉 (1979) 「南昌方言的子尾」『方言』3卷, 201-206
- 周敏莉 (2011) 「新邵湘語小称标记“啣”的语义演变及相关问题」『中国語文研

究』第31-32期, 51-65

周先义 (1988) 「道州地区“崽”字的用法」『语言研究』1号, 135-142

本研究は JSPS 科研費23K00509の助成を受けたものです。